

令和8年新年会・新春トップセミナー



1月27日、前橋市・前橋商工会議所会館において、新年会を開催しました。来賓と会員合わせて100名以上が参加し、新たな年の訪れを祝い、群馬県経済の成長・発展を祈念しました。新年会に先立ち開催した新春トップセミナーでは、講師の東善寺住職・村上泰賢氏が、令和9年の大河ドラマの主演となる小栗上野介が日本の近代化に果たした数々の功績について解説しました。

大竹良明会長が「政局の動きが経済をさらに飛躍させる原動力となることを期待する。先が読めない時代となり経営者に判断力や創意工夫がこれまで以上に問われている。群馬県中央会は今年で創立70周年を迎える中、連携の力を最大限発揮し、生産性向上に向けた投資支援や人材確保、適切な価格転嫁に向けた取組みを会員の現場に寄り添い行っていく」と挨拶した。

続いて、来賓を代表して群馬県知事・山本一太氏と日本銀行前橋支店長・宮将史氏が登壇し、それぞれ祝辞を述べた。

山本氏は、群馬県に勢いのある今、改めて立ち止まって中小企業の現場の声をよく把握し、県政に活かしていきたいと語った。

宮氏は昨年末の追加利上げについて説明するとともに、大局観を持ちつつ関係各所の声に耳を傾け、より良い政策運営を行いたいと述べた。

群馬銀行代表取締役副頭取・入澤広之氏が、物価高に県内中小企業が追いつきより豊かとなることを祈念して乾杯の音頭をとり、開宴。参加者たちが時間いっぱい交流を深める中、大江通浩副会長の中締めで散会となった。



大竹良明会長



群馬県知事
山本一太氏



日本銀行前橋支店長
宮将史氏



大江通浩副会長



多くの来賓を交えて鏡開き



群馬銀行代表取締役副頭取・入澤広之氏(左)の音頭で乾杯(上)

新春トップセミナー

「幕府の運命、日本の運命～小栗上野介の日本改造～」

一般には知られていないが、幕臣小栗上野介が明治以前から日本の近代化に果たしてきた役割は大きい。使節として渡米した際に得た見聞をヒントに帰国後、横須賀造船所の建設、兵庫商社など会社組織の設置、その利潤を活用したガス灯や情報網・交通網等の整備に向けた提案、西洋式の軍隊の導入などを実施。多くの政策立案から、日本の将来を見据えるとともに、国民の利益・幸福を追求する小栗の姿勢が見て取れる。



東善寺住職 村上泰賢氏

使節としてワシントンの造船所を見学した折、船にとどまらずあらゆる鉄製品を製造している様子を見て、「日本の近代化の第一歩は造船所から」と考え、攘夷運動が高まる中であって物怖じせず、4年の歳月をかけて幕府を説得。その結果、横須

賀に建設された造船所は、定時労働・定休・職階・年功給・複式簿記などの近代経営を導入。富岡製糸場をはじめとした各地の工場のモデルとなり、国内に近代経営を広める役割も果たした。また、併設した学校からは多くの人材を輩出した。

造船所建設にあたり、「完成する頃には幕府がどうなっているかもわからない」という反対意見もあったが、「幕府の運命に限りがあっても、日本の運命に限りはない。幕府のしたことがのちに日本のためになっていると言われるなら、幕府の名誉であり国益ではないか」と言って笑った。日露戦争終戦から数年後、東郷平八郎が小栗の家族を招き、「日本が勝利できたのは、横須賀造船所のおかげ」と感謝を述べ、もてなした記念の書面が今も残っている。

造る。多くの政策立案から、日本の将来を見据えるとともに、国民の利益・幸福を追求する小栗の姿勢が見て取れる。

○東善寺

高崎市倉渕村権田 169

○NHK 大河ドラマ

『逆賊の幕臣』

令和9年放送予定。主演は松坂桃李氏。幕末の武士小栗上野介忠順を主人公に、幕臣の側から幕末史を描く。